

CDPサプライヤーサポートトレーニング ウォーター

ご参加ありがとうございます。
開始時刻まで今しばらくお待ちください。

2025年7月22日(火)

開始 14:00 終了予定 15:00

※本トレーニングの無断録画・録音・掲載は禁止しております。

※本トレーニングは録画されており、後日CDPウェブサイトでは資料・録画を一般公開する予定です。

※ご質問は、Q&A機能をご利用ください。



留意事項

- 本トレーニングの無断録画・録音・掲載は禁止しております。
- 本トレーニングは録画されており、後日CDPウェブサイトでも資料・録画を公開する予定です。
- ご質問は、Q&A機能をご利用ください。時間の許す限り回答いたします。



ウォーター

サプライヤーサポートトレーニング

2025年7月22日

アジェンダ

なぜウォーターについて開示するのか？

対策を講じない場合のコストについて

なぜサプライチェーンが重要なのか？

サプライヤーにとってのメリット

ウォーターにおける情報開示の歩み



なぜウォーター について開示 するのか？



影響・依存関係・リスク・機会、そして経済的行動に関する概要

世界の水資源の現状

20億

水ストレス下にある国に住む人口数
[出典]。

20-30%

2050年までに予測される水需要の増加率
[出典]

88%

淡水取水量の内、農業と工業が占める
割合[出典]

27%

産業排水の内、安全に処理されている
割合 [出典]



なぜウォーターについて開示するのか？

水の供給は、ビジネスにおいて最も一般的な依存要素となっています

58兆ドル

淡水の経済的価値

50%

高所得経済圏における水供給量
のうち、水不足地域からきている
割合

135億ドル

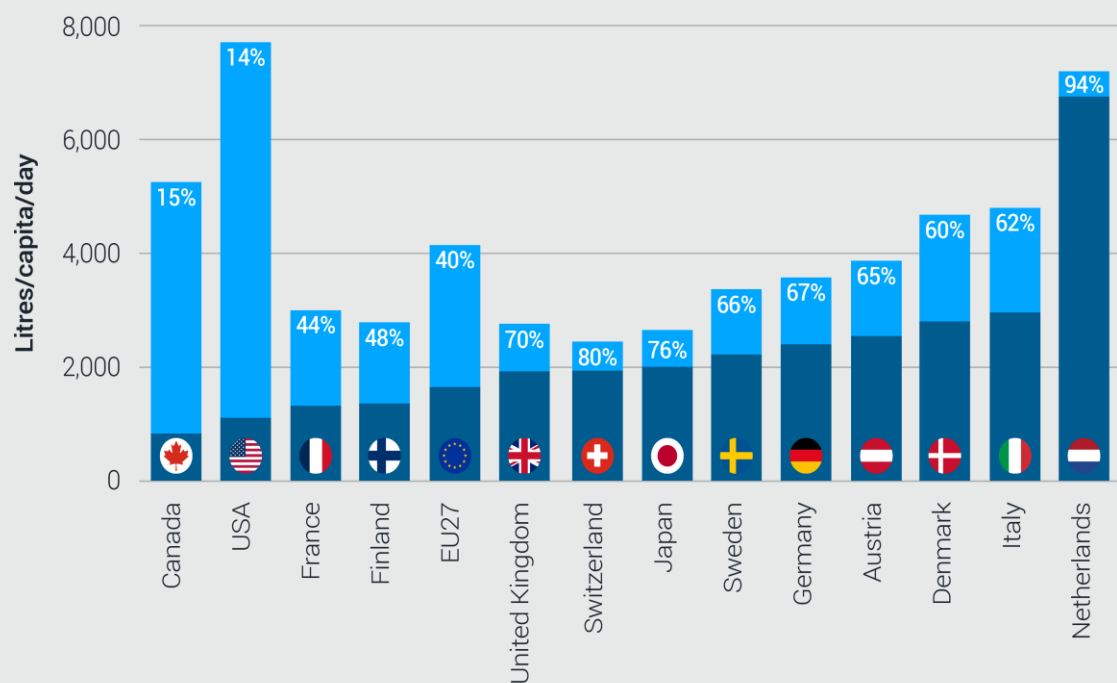
すでに水問題で立ち往生
している資産の金額

5960億ドル

水リスクによる潜在的な財務的
影響規模



フェアウォーターフットプリント



Percentage indicated proportion of total WF which is external

■ External WF of consumption per capita ■ Internal WF of consumption per capita

選定された先進国経済圏におけるウォーターフットプリントの中で、
国外水資源への依存度、一人当たり、2016-2020

- グローバル・ノースの消費国は、水消費需要の40～90%を外部の水利用に依存している。
- このような外部ウォーターフットプリントは、多くの場合、途上国の脆弱な環境下にある。
- これらの外部のブルー・ウォーターフットプリントの約50%は持続可能ではないと考えられ、河川や帯水層を枯渇・汚染し、地域社会や生態系、経済に影響を与えている。
- 実地調査によると、サプライチェーンにおける多くの場合は持続可能ではない水を使用している。

フェア・ウォーターフットプリント イニシアティブ

CDPは、「フェア・ウォーターフットプリント」イニシアチブのリードパートナーとして、政策立案者、民間企業、市民社会を結集し、責任ある水資源管理をグローバルビジネスの標準とすることを目指しています。

フェア・ウォーターフットプリントはつの基本原則によって定義されている：

1. 水質汚染ゼロ
2. 持続可能かつ公平な取水と水の使用
3. 労働者の安全な水、衛生設備、衛生（WASH）への完全なアクセス
4. 自然との共存と保護
5. 干ばつと洪水への備え



より総合的な情報開示を推進

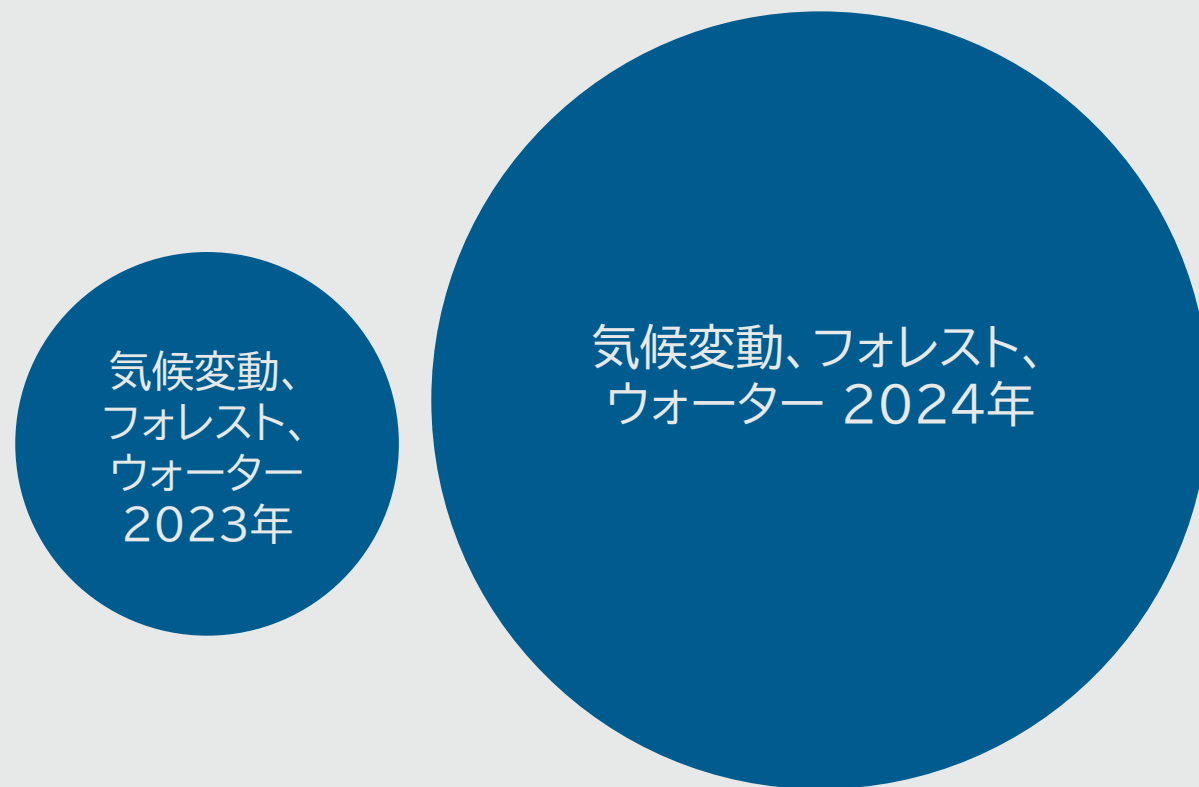


気候変動、フォレスト、ウォーターを1つの質問書にまとめ、生物多様性とプラスチックの質問をすべての企業に提示することで、CDPは2024年に環境報告をこれまで以上に推進。

3,500以上の企業が2024年に
すべての環境課題を開示

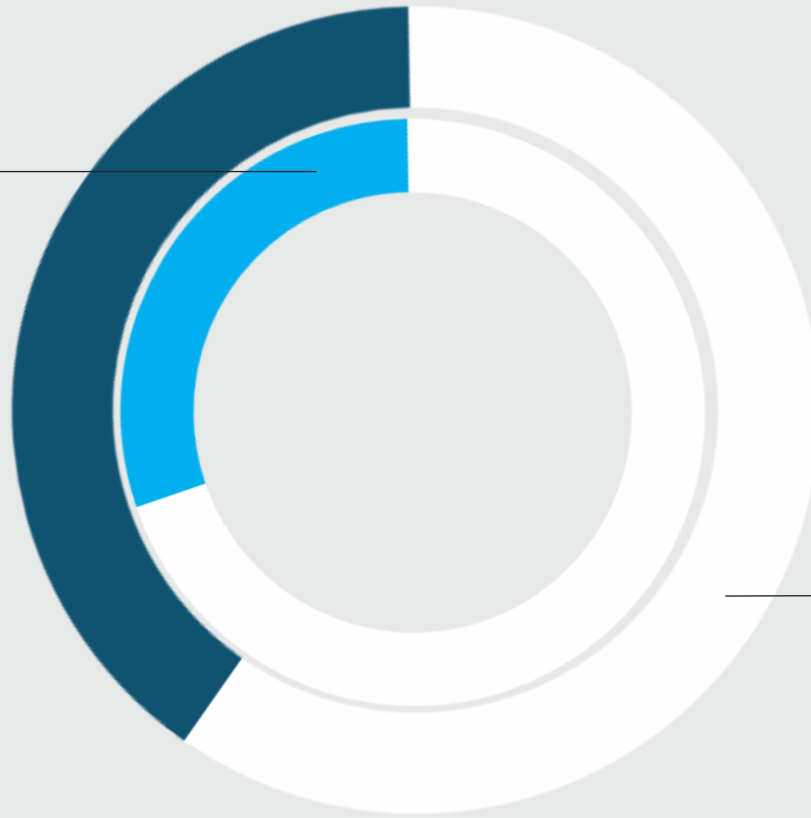
2023年比で316%増加

2024年の調査回答者の60%が、
新しい質問書の構成は、環境課題別
に分かれていた以前のバージョンより
改善されていると回答している



ウォーターにおける情報開示は 企業の意識向上と行動を促す

ウォーターについて、
CDPに初めて回答した
開示企業の **28%**が水
セキュリティの事業成長
への影響を評価している。



情報開示3年目には
この割合は**40%**に
上昇する。



行動について

過去9年間一貫して開示している223社のうち約半数が取水量を削減している。

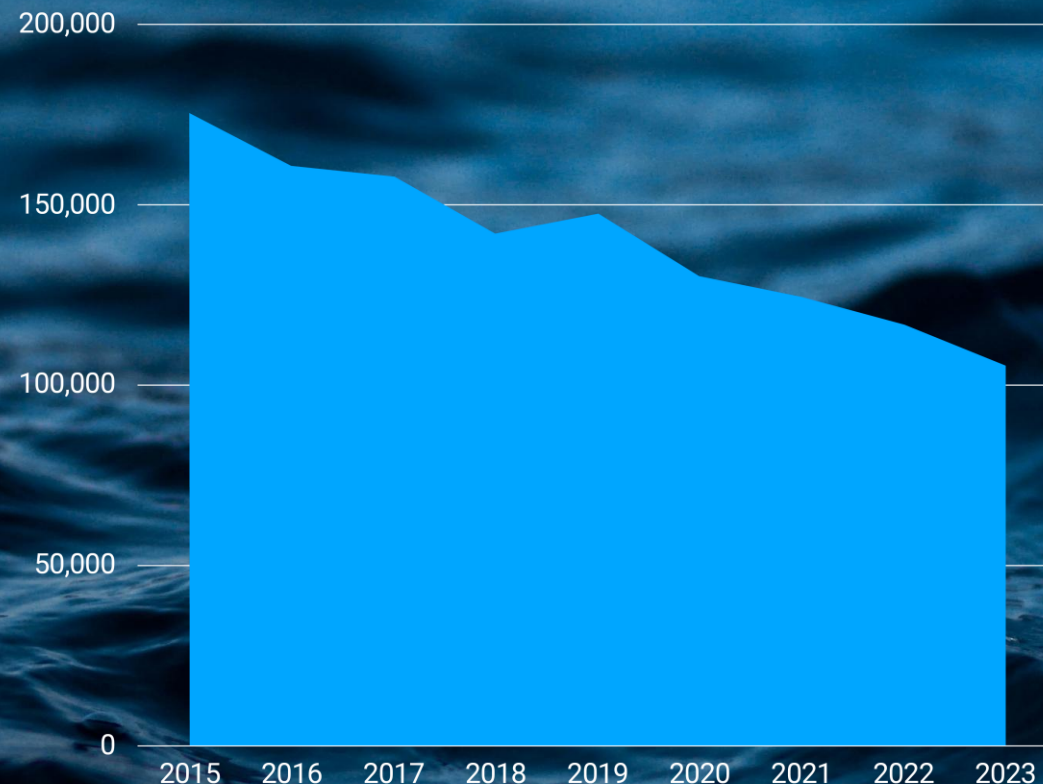
全開示企業の30%が取水量削減目標を設定している。

9%がWASH*目標を設定している。

* WASHとは、Water(水)、Sanitation(衛生設備)、Hygiene(衛生促進)の略で、水、トイレ、衛生に関する基本的なサービスや活動を指します。



Total water withdrawals (million m3)



対策を講じない場合 のコストについて



対策を講じない場合のコスト

CDPのデータによると、水リスクによる潜在的な財務影響は**5960億米ドル**にのぼる。

これらのリスクを軽減するために**1,000億米ドル**の資金が必要となる。

対策を講じないことによるコストは、対策を実施するコストの**5倍以上**になる可能性がある。

出典: CDP 2023年データ

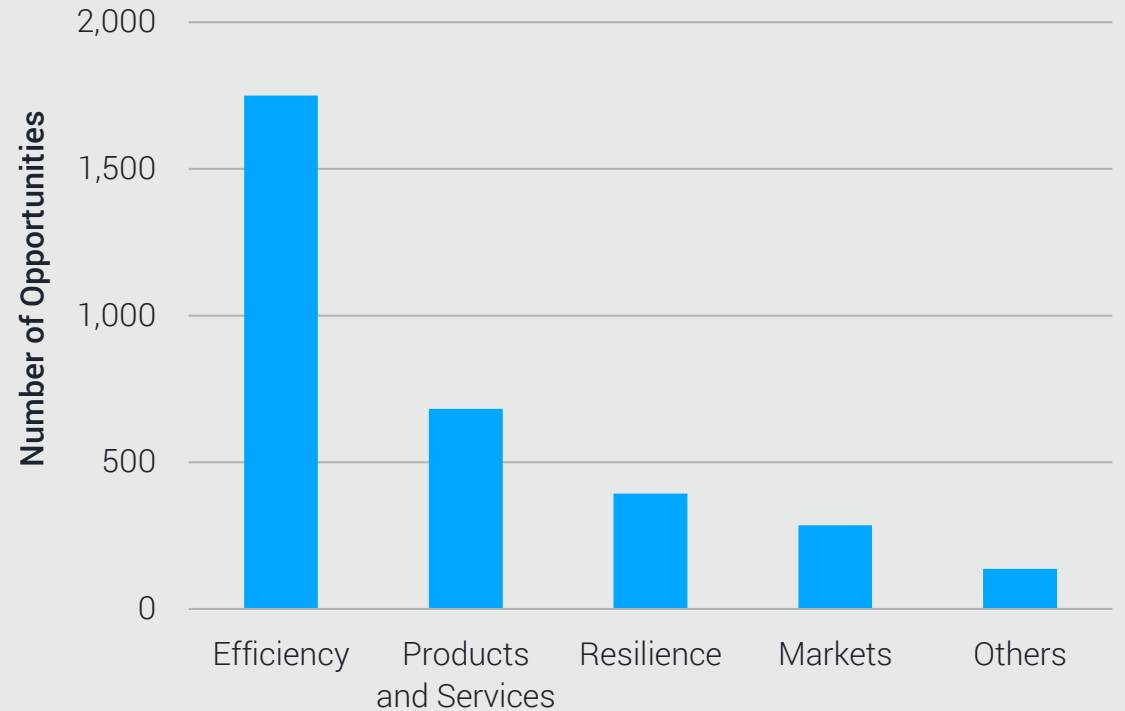


意識することが利益につながる

45%の企業が、自社の事業に重大な財務的または戦略的な影響を持つ可能性のある水関連の機会を特定した。

24%の企業が、**2,420億米ドル**相当の機会があると報告している。

出典:CDP 2023年データ



なぜ
サプライチェーンが
重要なのか？



水不足への対応における サプライチェーンの重要な役割

- サプライチェーンは多くの場合、**水リスクに最もさらされる**場所である。
- 多くの産業は、水を大量に消費する工業・農業部門からのエネルギーやインプット、あるいは物資輸送のための河川に依存しているため、サプライチェーンを通じて水リスクにさらされている。
- 水セキュリティには、他の環境課題とは異なる独自の特性があり、特にその**極めて地域的な性質**が際立っている。
- 組織は、水に関する課題を評価するにあたっては、**地理的な特性**や**文脈の多様性**を考慮する必要がある。



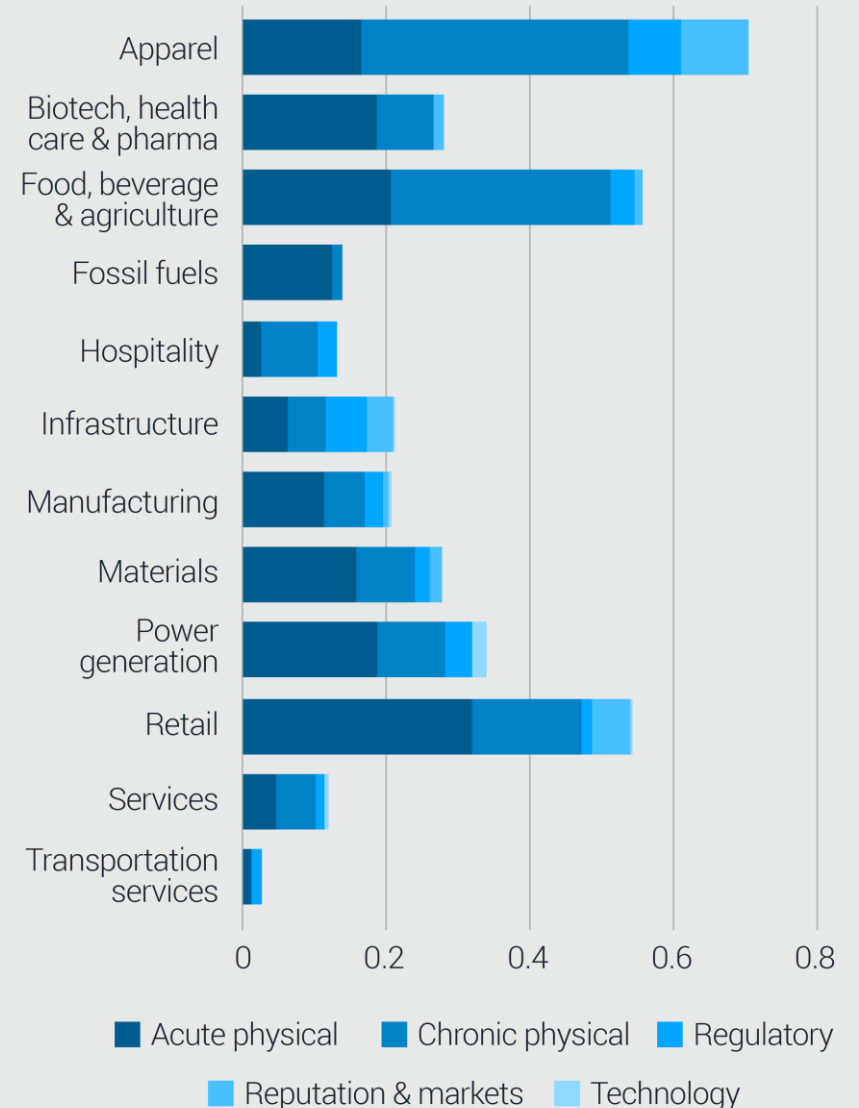
サプライチェーン上の水リスクは見過ごされている

- 5社に1社が、自社の事業に重大な影響を及ぼす可能性のあるサプライチェーン上の水リスクを報告している。
- サプライヤーをリスク評価に組み込んでいる企業は、サプライチェーンのリスクを報告する可能性が7倍高くなる。
- バイヤーの50%が水に関してサプライヤーと協力している。
- サプライチェーン上の水リスクを毎年報告している企業は、2021年の16%から2023年には20%に増加。

出典CDP 2023年データ



セクターごとのリスクタイプの平均数



サプライヤーにとって のメリット



情報開示の主なメリット



資本へのアクセス
サプライヤーの地位向上

250以上の購買組織が調達
の意思決定にCDPのサ
プライヤー・データを利用し
ている。



事業競争力
リスクの管理と機会の発掘

サプライヤーと協働している
企業は機会を報告する可能
性が14倍



コンプライアンス
義務的または任意

CDPの情報開示プラットフォームは
購買企業や投資家のための情報の
一貫性を向上させる。



世界の重要な開示基準との整合

CDPは、これらの基準を組織が実際に活用できる形に変換します。つまり、回答・実行すべき質問やデータポイントとして提示し、それらの高品質なデータを、1つのデータセットとしてステークホルダーや市場に共有します

整合済



気候変動に関するガバナンス、戦略、リスクと機会の管理、指標と目標について、企業が報告すべき内容を規定



GHG排出量の算定・報告ための国際基準



気候関連財務情報開示タスクフォース



整合の推進



CSRDの情報開示基準ESRSを作成した組織
ESRS E1とは大部分で整合済
公式なパートナーシップを通じて、完全整合に向けて取り組み中



報告主体が経済、環境、社会に与えるインパクトを報告し、持続可能な発展への貢献を説明するためのフレームワークを提供

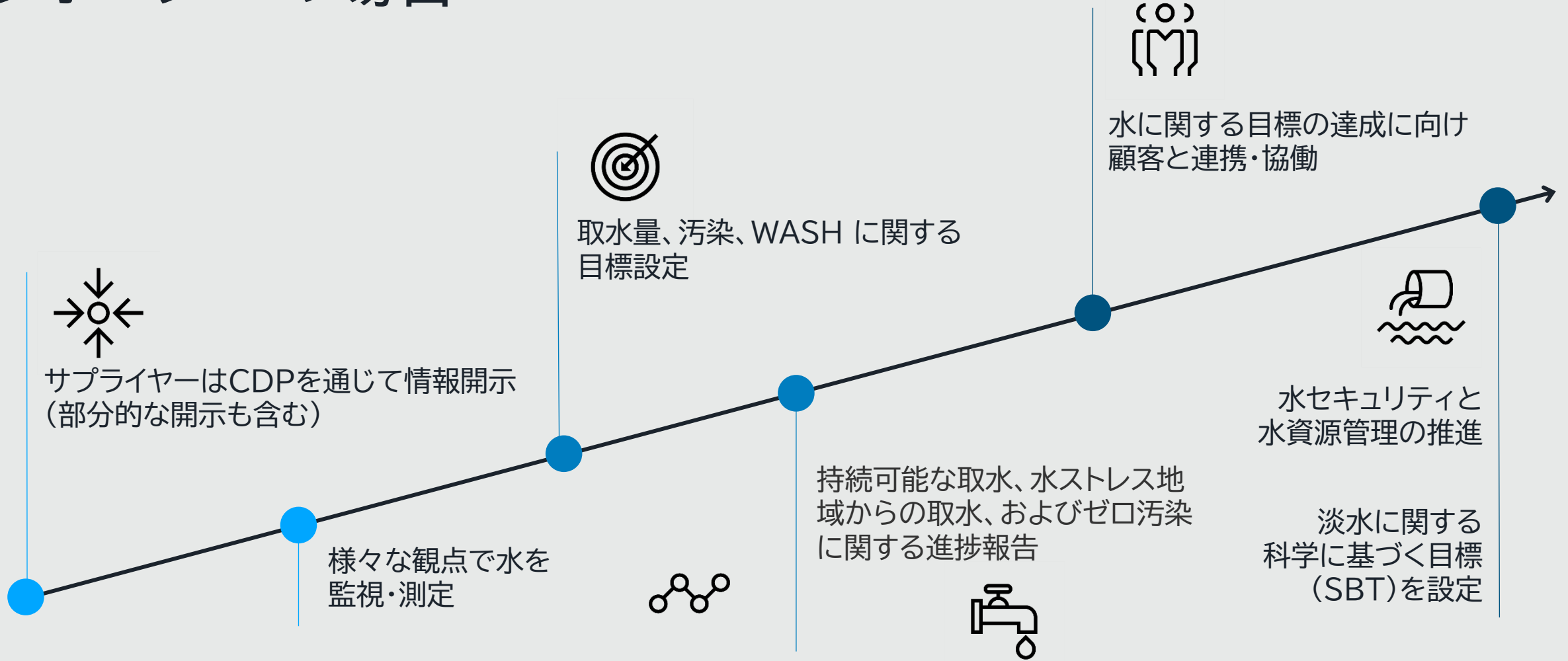


自関連財務情報開示タスクフォース
TNFDの開示推奨事項に部分的に整合済、完全整合に向けて取り組み中



サプライヤー開示のためのロードマップ

ウォーターの場合



Phase 1: 基盤確立

Phase 2: 能力構築

Phase 3: パフォーマンス改善

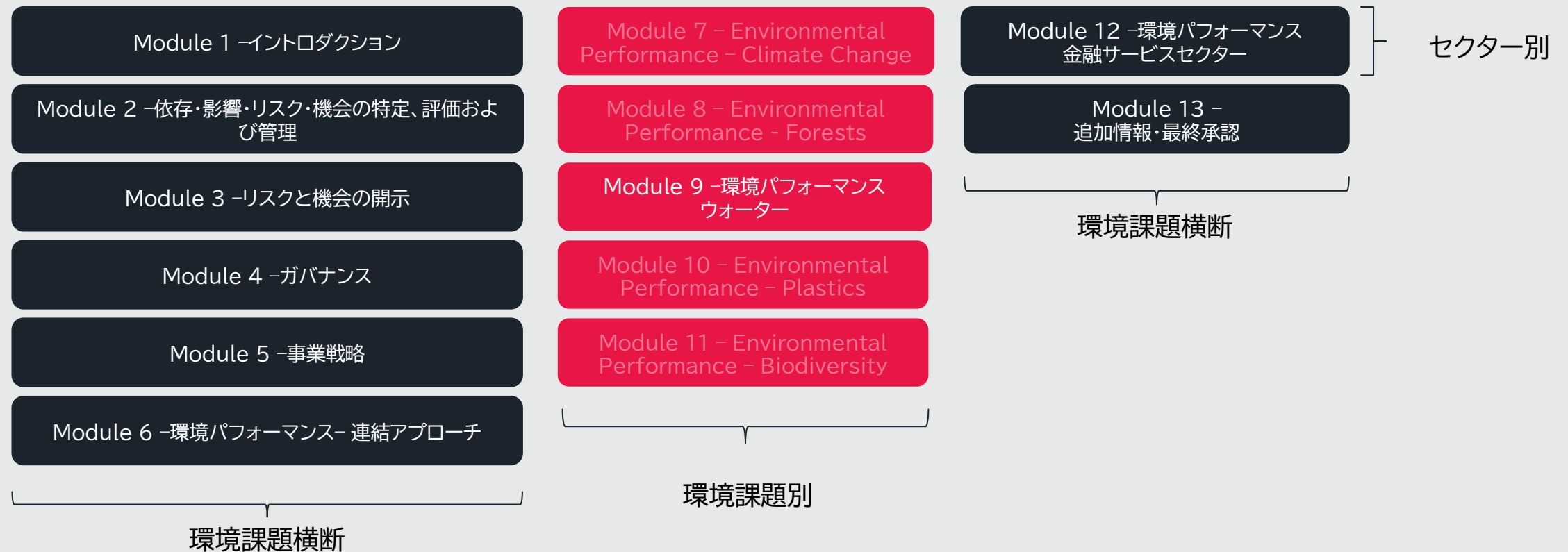
ウォーター における 情報開示の歩み



情報開示による環境改善の推進

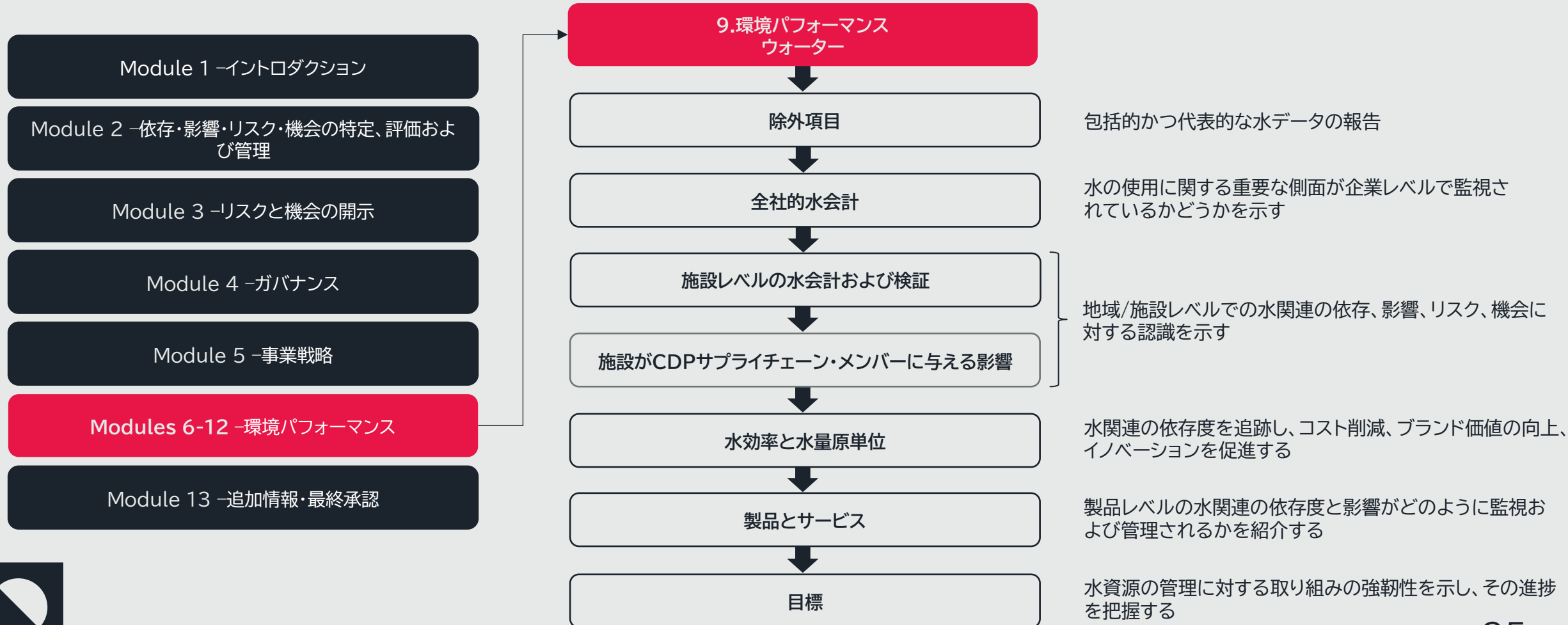
完全版質問書:

合理化された総合的なご報告



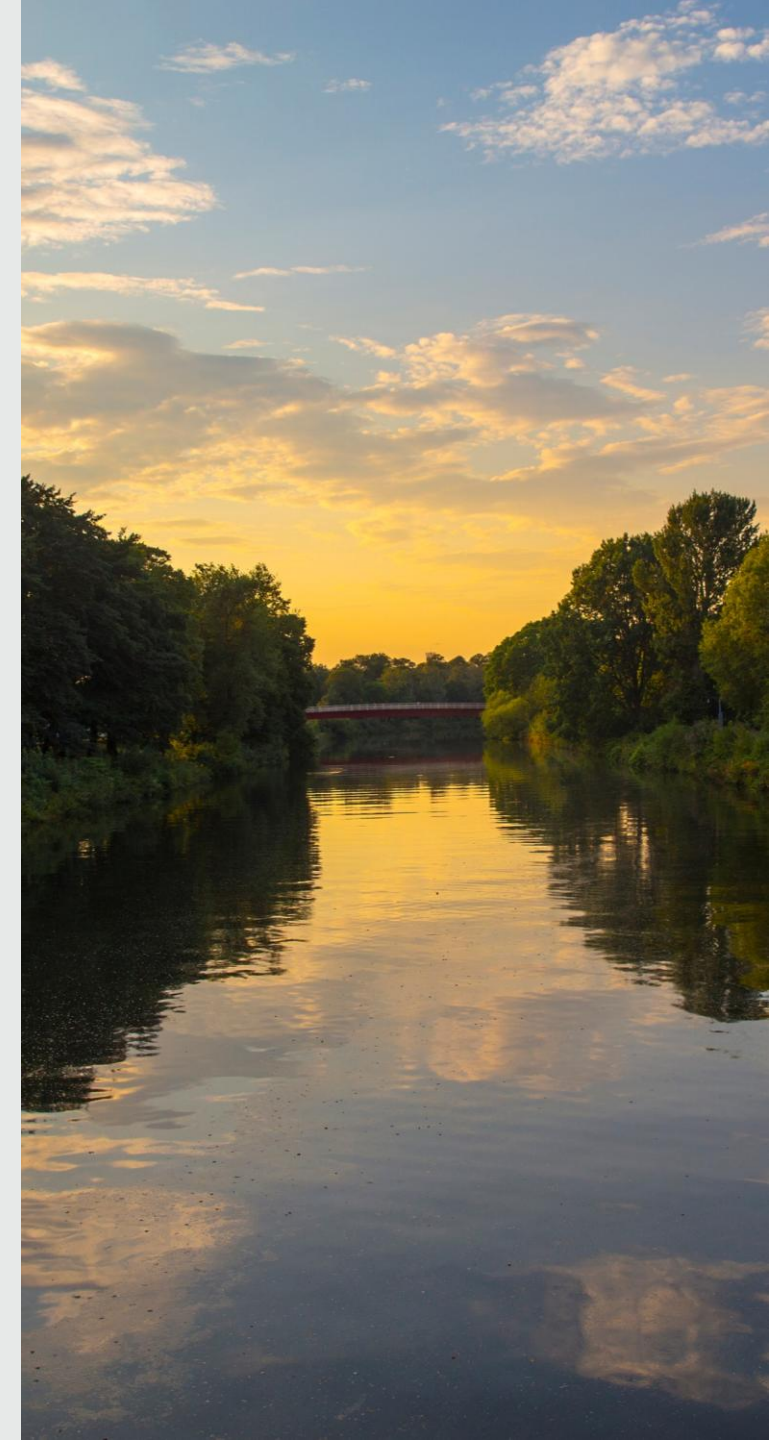
Module 9:

環境パフォーマンス:ウォーター



水会計の基本

- 組織バンダリー内の水関連データの測定とモニタリング
- 主なコンセプト
 - 取水
 - 排水
 - 水の消費
- 最も重要なことは、企業が企業の水文学のあらゆる側面について、しっかりとしたモニタリングと会計処理を行い、水への依存度を理解していることを示すこと
- 詳細は、水会計に関するテクニカル・ノートを参照。



フォーカス:

水会計

(全社及び施設レベル)



このモジュールの質問では、貴組織が企業としての水循環をどれほど理解しているかを示すことができます。具体的には、水に関連する重要な側面のモニタリングに関する情報、すなわち水ストレス地域を含む取水量、処理レベル別の排水量、および水の消費量に関する定量的データが含まれます。

- 測定: 水に関する側面について、定量化されたデータを収集すること。これは、単一の量／質の数値として、または複数の量／質の数値の集計として行われます。
- モニタリング: これは、測定値を時間の経過とともに追跡することを指し、すなわち測定された数値の傾向や変化の兆候を示すものです。
- 取水量: 報告期間中に、あらゆる用途のために、すべての水源から組織（または施設）の範囲内に取り込まれた水の総量。
- 排水量: 報告期間中に、排水およびその他の水が組織のバンダリー外へ放出された総量。これには、地表水、地下水、または第三者への排出が含まれます。
- 水の消費量: 報告期間中に、組織（または施設）のバンダリー内に取り込まれた水のうち、水環境または第三者に排出されなかった水の量。

完全版	9.2 9.3
-----	------------

事例:

9.2: 貴組織の事業活動全体で、次の水に関する側面のどの程度の割合を定期的に測定・モニタリングしていますか。

- 水の使用量 – 施設全体の100%における月間使用総量
- 排水量 – 施設全体の100%における月間排水総量
- 水の消費量 – 施設全体の100%における月間消費総量

9.2.2: 貴組織の事業全体で、取水、排水、消費した水の合計量と、前報告年比、また今後予測される変化についてご記載ください。

- 総取水量: 150,000m³
- 総排水量: 30,000m³
- 水の総消費量: 120,000m³

役立つリソース:

水会計に関するテクニカルノート



フォーカス:



水ストレス下にある地域からの取水

なぜこれが重要なのか？

水ストレスはビジネスリスクの要因であり、今後その深刻化が予想されるため、透明性の確保が極めて重要です。水ストレスの高い地域で事業を展開していることによって生じるリスクの増大を把握することは、投資家コミュニティにとって非常に重要です。設問 9.2.4では、データ利用者が、水ストレスのある流域への依存度がどのように推移しているかという傾向を把握することが可能となります。



完全版	9.2.4
-----	-------



水ストレス（[水ストレス下にある地域]）：水の利用可能性等、水資源に関連する物理的量の側面に注目した概念です。優良実施例として、水ストレス地域は最低限として集水域単位で測定する必要があります。水ストレスにさらされている地域を評価するために、一般的に使われている国際的な指標と、CDPに報告するための基準には以下が含まれます：

- 水の利用可能性 – [高リスク]より大きいカテゴリ:3.4 ([WWF水リスクフィルター](#))。
- ベースライン水ストレス – 指標[$\geq$ 高]: 40～80% ([WRI Aqueduct Water Risk Atlas](#))。年間総取水量の利用可能かつ再生可能な供給量に対する割合。
- ベースライン水資源枯渇 – 指標[$\geq$ 高]: 50～75% ([WRI Aqueduct Water Risk Atlas](#))。年間総消費量の利用可能かつ再生可能な供給量に対する割合。

フォーカス:

水質汚染



なぜこれが重要なのか？

水質汚染物質は、地表水と地下水の水質およびそれらに依存する生態系に脅威を及ぼします。関連質問は、組織が取り扱う物質およびその排水の特性と関連する潜在的な水質汚染物質を特定し分類していることを示すものです。企業は、事業活動や製品に関連する潜在的な水質汚染物質を特定・分類し、これらを効果的に管理できることが重要です。

水質汚染物質：水域および/または水生生態系を直接的または間接的に悪化させる/汚染する、あるいは人の健康に影響を及ぼす可能性がある物理的(熱を含む)、生物学的、あるいは科学的作用物質(有機物、無機物、または重金属物質)。

完全版	2.5 2.5.1
-----	--------------



企業への期待：企業は、事業活動や製品と関連する潜在的な水質汚染物質を特定し分類し、汚染の削減と管理を効果的に実施する。

水質汚染物質：

- 無機汚染物質
- オイル
- 硝酸塩
- リン酸塩
- 農薬
- マイクロプラスチック



悪影響を最小限に抑えるための行動と手順：

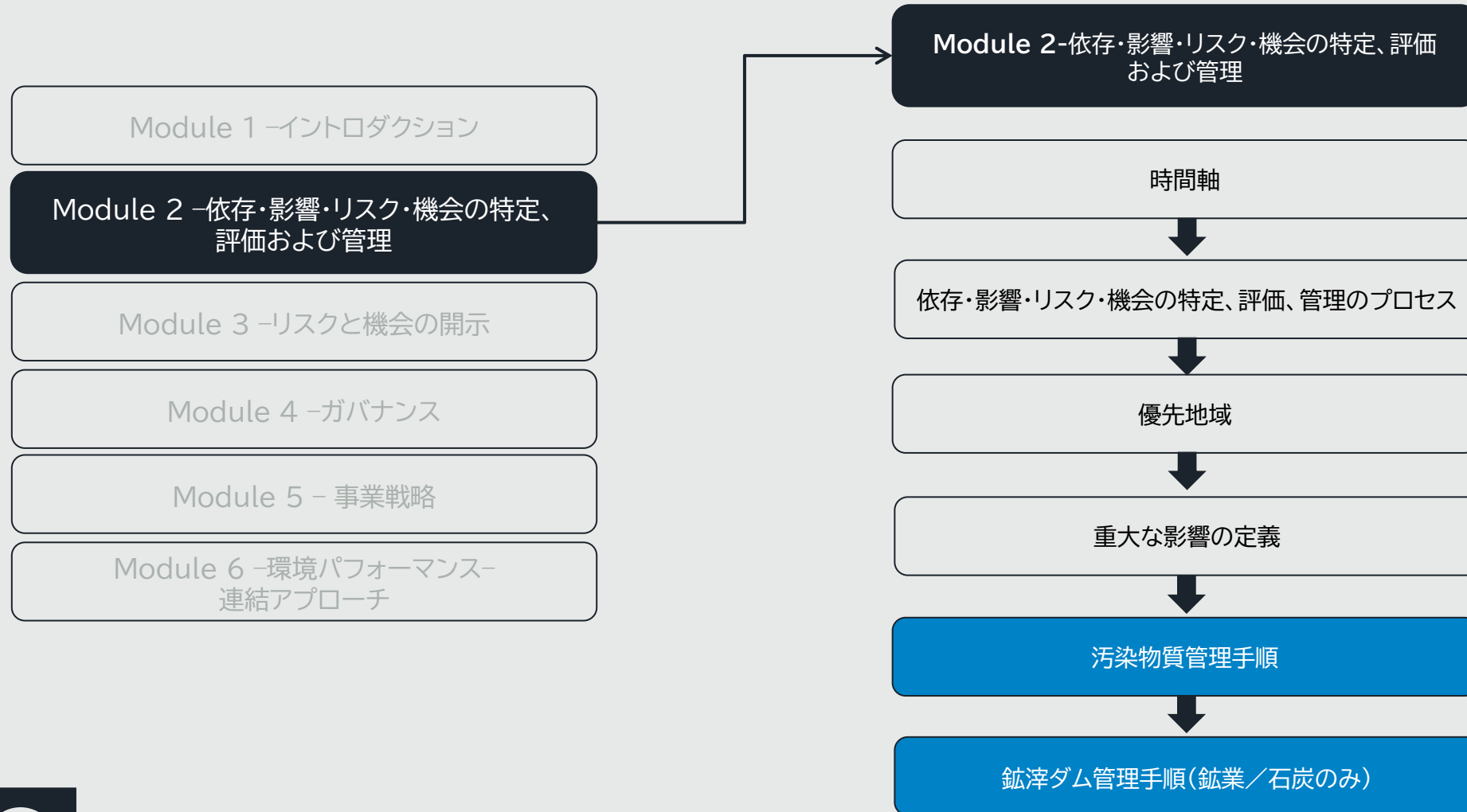
- 重要インフラおよび貯蔵施設の状態(漏出、流出、パイプの腐食等)およびそのレジリエンスの評価
- 統合型の土壌廃棄物管理システムの導入
- 産業/化学品事故の防止、対策、対応
- 有害物質の削減または段階的使用停止

ウォーターにおける
情報開示の歩み:

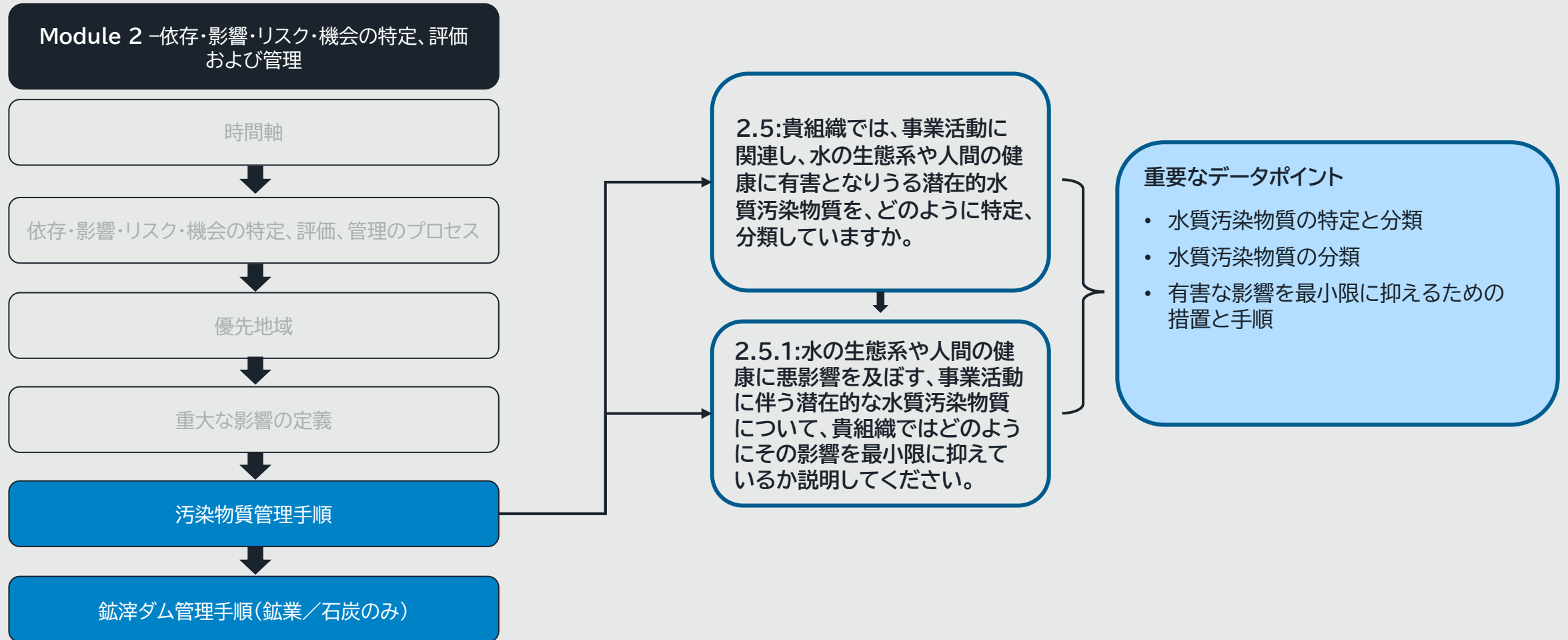
水関連質問の詳細



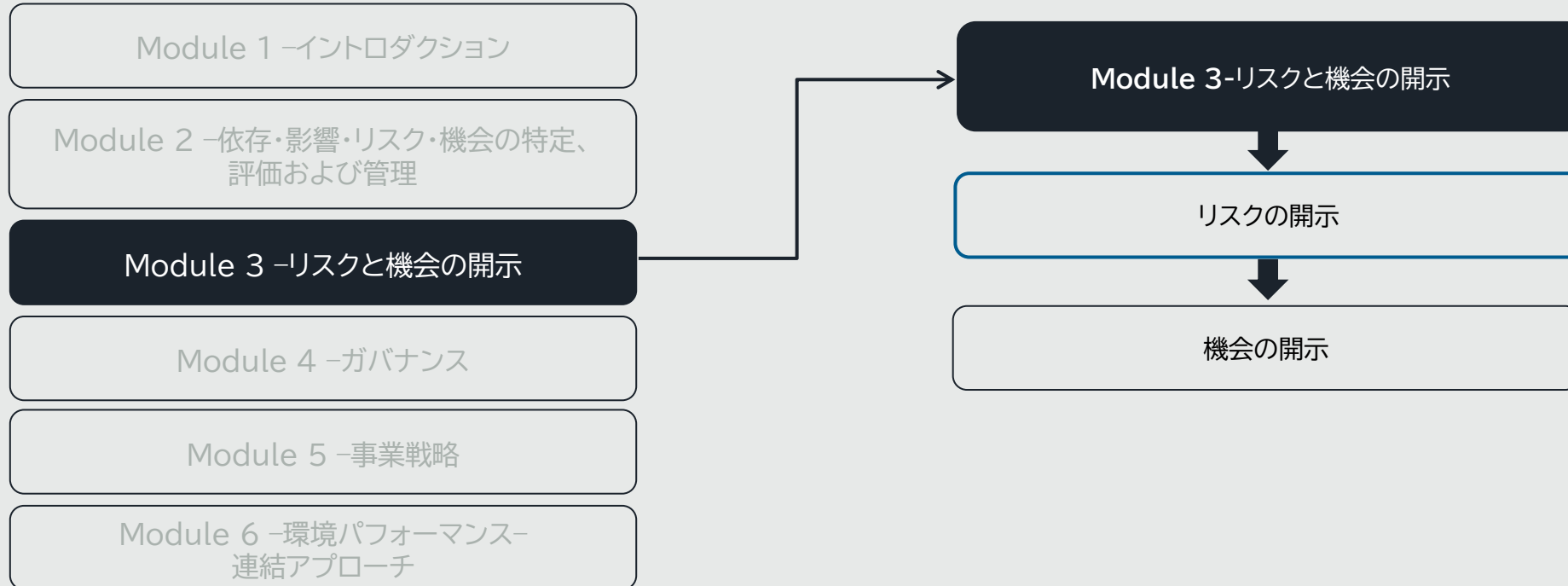
Module 2: 水に関する重要なセクション



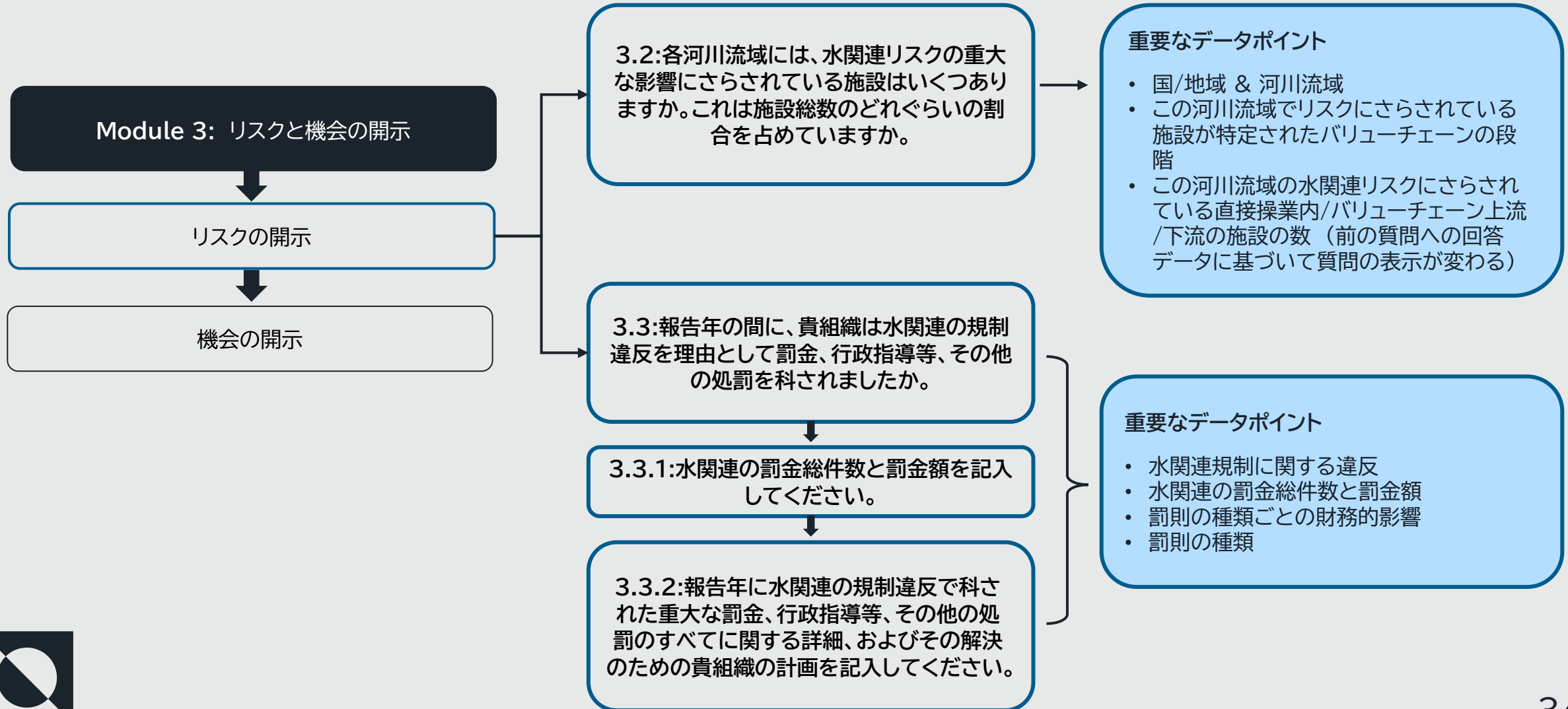
Module 2: 水に関する重要な質問



Module 3: 水に関する重要なセクション



Module 3: 水に関する重要な質問



Module 5: 水に関する重要なセクション

Module 1 – イントロダクション

Module 2 – 依存・影響・リスク・機会の特定、評価および管理

Module 3 – リスクと機会の開示

Module 4 – ガバナンス

Module 5 – 事業戦略

Module 6 – 環境パフォーマンス-
連結アプローチ

Module 5: 事業戦略

シナリオ分析

移行計画

環境上のリスクと機会の効果が
戦略と財務計画に与えた影響

資本的支出(CAPEX)及び 間接費(OPEX)の整合

Low-carbon R&D

CAPEXの内訳

CAPEX及び OPEXの傾向

環境外部性の価格設定

バリューチェーンエンゲージメント

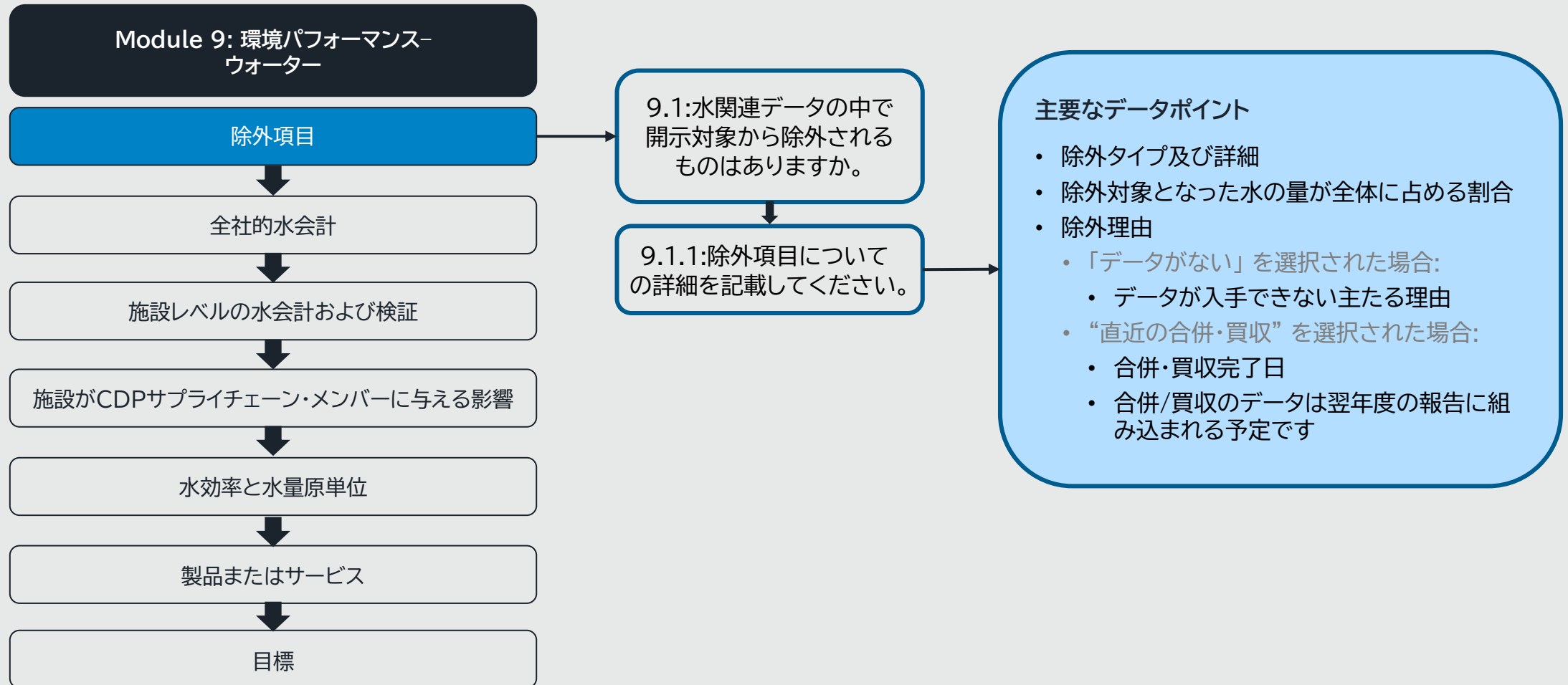
協働の機会

資産運用会社に対する環境要件(金融セクターのみ)

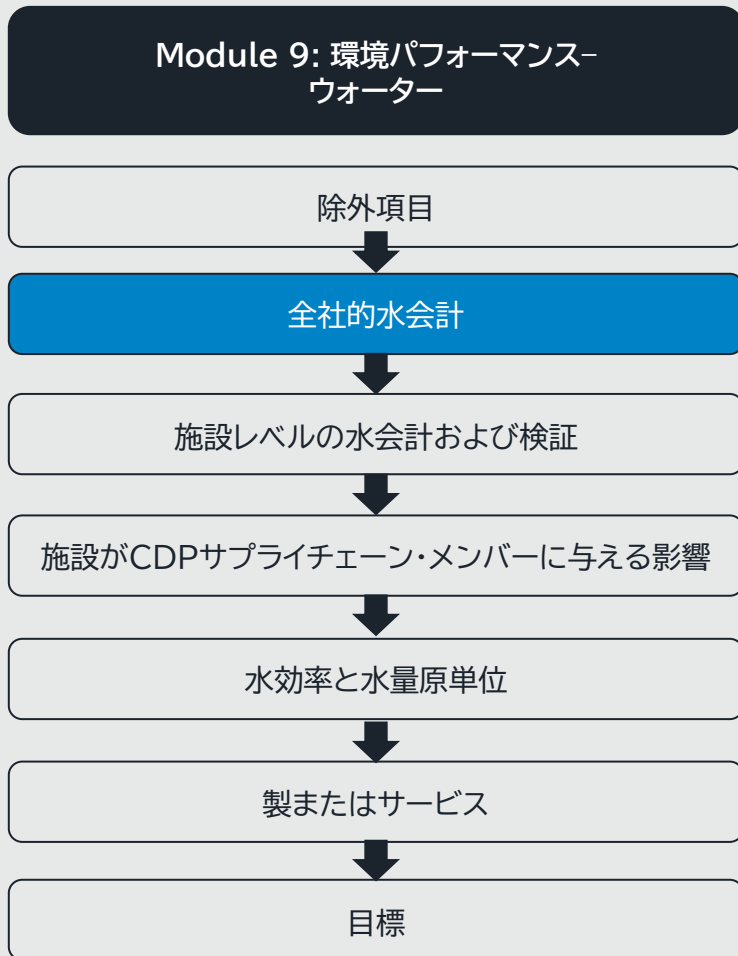
株式保有による議決権行使(金融セクターのみ)



Module 9: 除外項目



Module 9: 全社的水会計



9.2: 貴組織の事業活動全体で、次の水に関する側面のどの程度の割合を定期的に測定・モニタリングしていますか。

主要なデータポイント

- 水の側面ごとにモニタリングしている拠点／施設／事業活動の割合

9.2.2: 貴組織の事業全体で、取水、排水、消費した水の合計量と、前報告年比、また今後予測される変化についてご記載ください。

主要なデータポイント

- 総取水量、総排水量、総消費量
- 前報告年との比較
- 5年間の予測

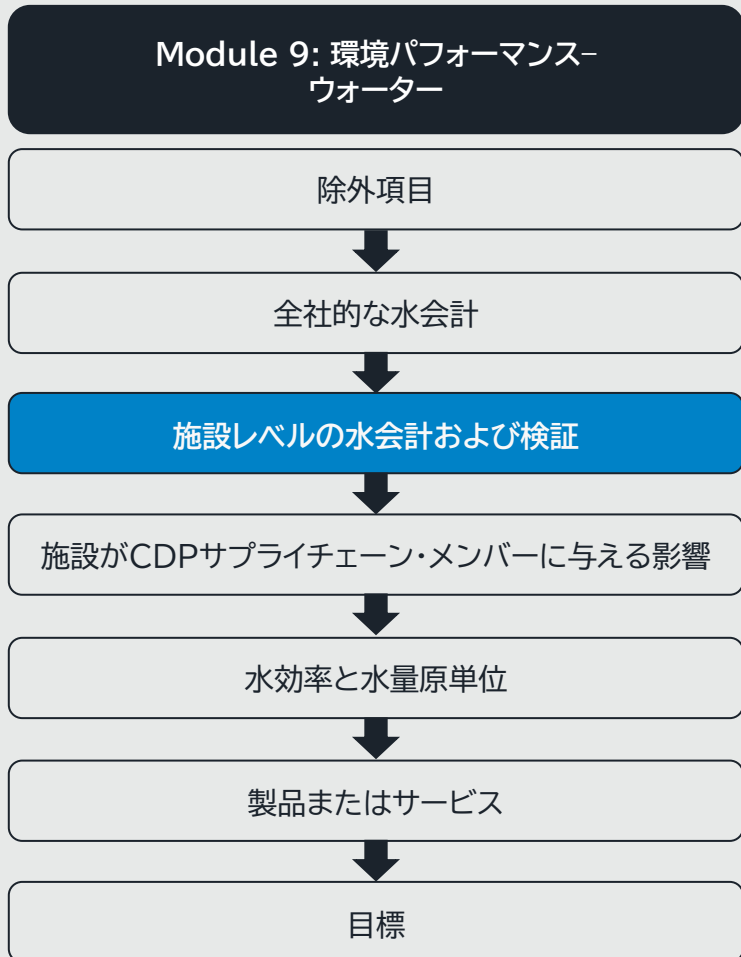
9.2.4: 水ストレス下にある地域から取水を行っていますか。また、その量、前報告年比、今後予測される変化はどのようなものですか。

主要なデータポイント

- 水ストレス下にある地域からの取水量（メガリットル）
- 水ストレス下にある地域からの取水量の全体における割合



Module 9: 施設レベルの水会計及び検証



9.3: 直接操作およびバリューチェーン上流において、水に関連する重大な依存、インパクト、リスク、機会を特定した施設の数はいくつですか。

9.3.1: 質問9.3で挙げた各施設について、地理座標、水会計データ、前報告年との比較内容を記入してください。

9.3.2: 質問9.3.1で挙げた貴組織が直接操作している施設について、第三者検証を受けている水会計データの比率をお答えください。

主要なデータポイント

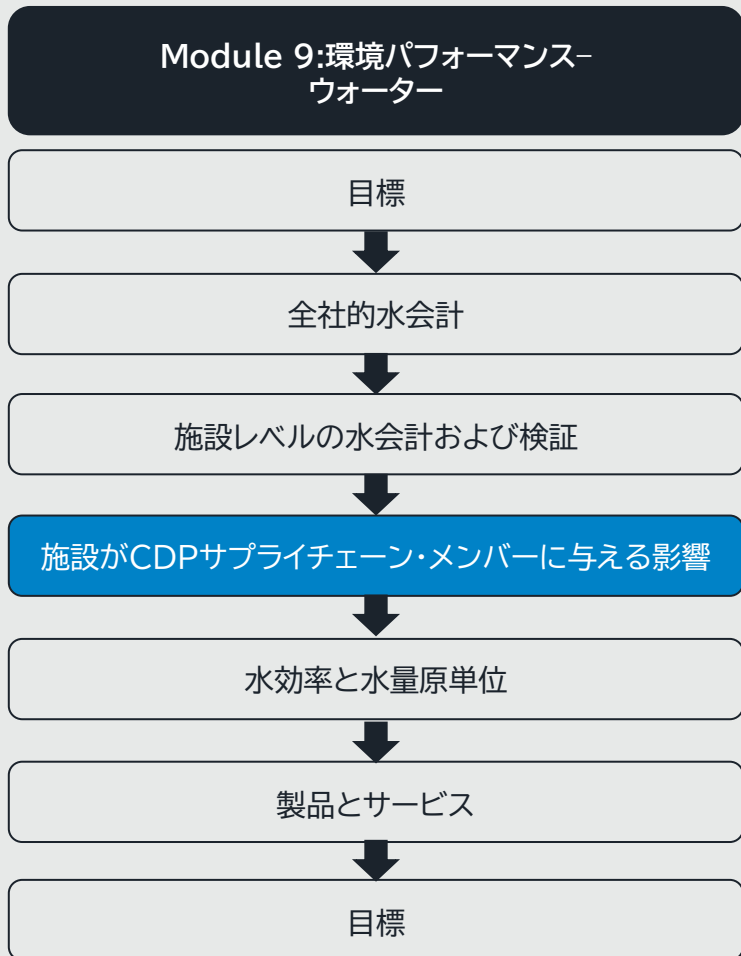
- 水に関連する重大な依存、インパクト、リスク、機会を有する施設を特定する
 - 直接操作
 - バリューチェーン上流

各施設について:

- バリューチェーンの段階
- 特定された依存、インパクト、リスク、機会に関連するかどうか
- 取水 or 排水に関連するかどうか



Module 9: 各施設がCDPサプライチェーンメンバーに与える影響



9.4: 質問9.3.1で報告した貴組織の施設のいずれかが回答を要請しているCDPサプライチェーンメンバー企業に影響を及ぼす可能性がありますか。

9.4.1: 質問9.3.1で言及した施設のうち、回答を要請しているCDPサプライチェーンメンバー企業に影響を及ぼすのはどの施設か述べてください。

参照:

9.3.1: 質問9.3で挙げた各施設について、地理座標、水会計データ、前報告年との比較内容を記入してください。

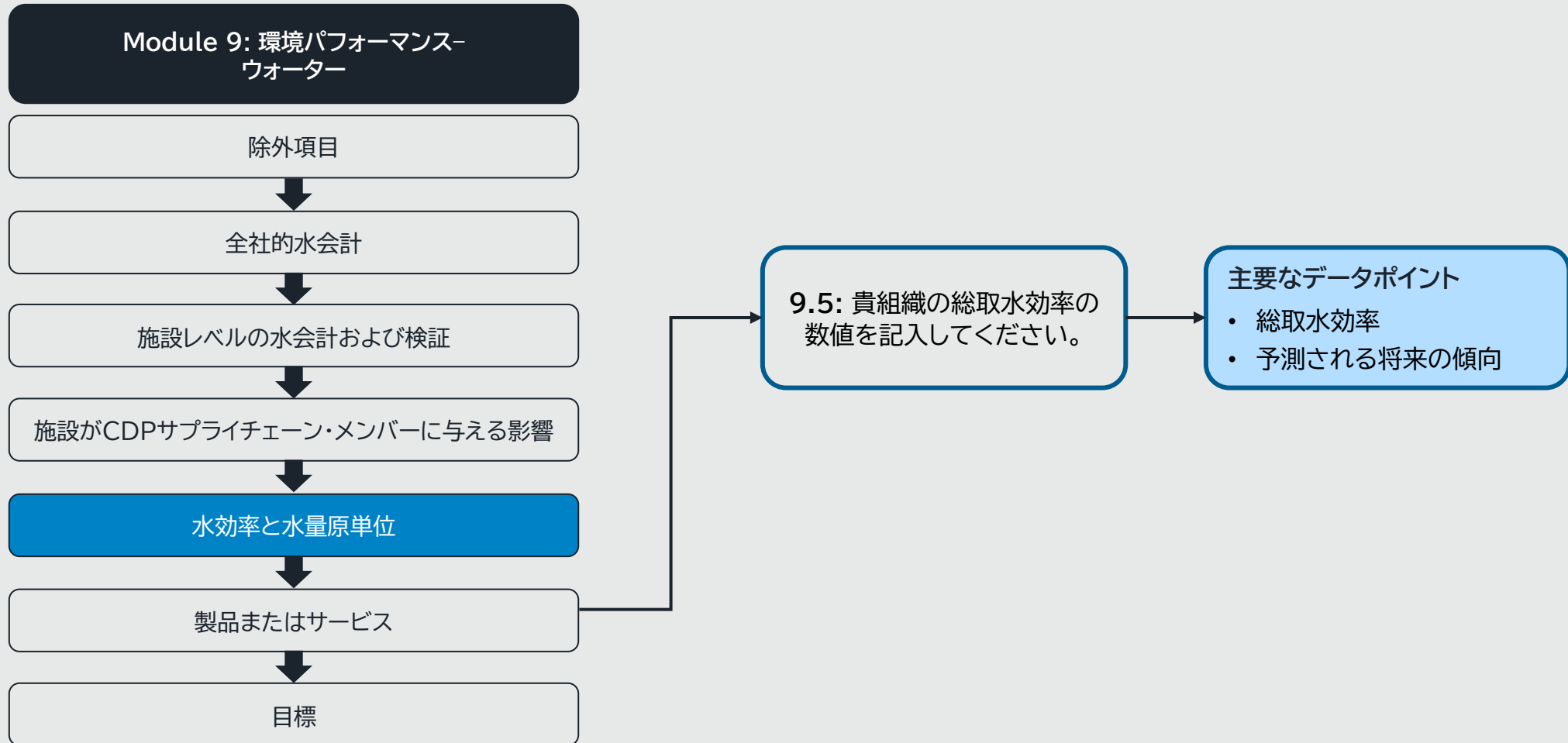
9.3: 直接操業およびバリューチェーン上流において、水に関連する重大な依存、インパクト、リスク、機会を特定した施設の数はいくつですか。

主要なデータポイント

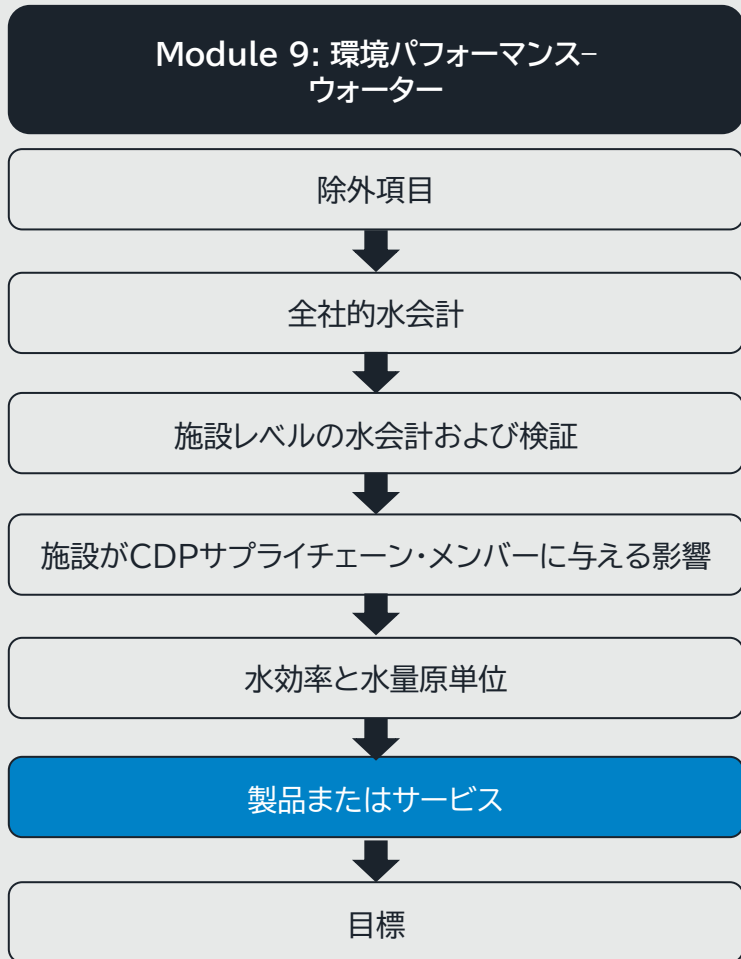
- 要請を行ったメンバー(顧客)
- メンバー(顧客)への潜在的な影響の説明



Module 9: 水効率と水量原単位



Module 9: 製品またはサービス



9.13: 規制当局により有害と分類される物質を含んだ貴組織の製品はありますか。

9.13.1: 規制当局により有害と分類される物質を含んだ貴組織製品が売上に占める割合を教えてください。

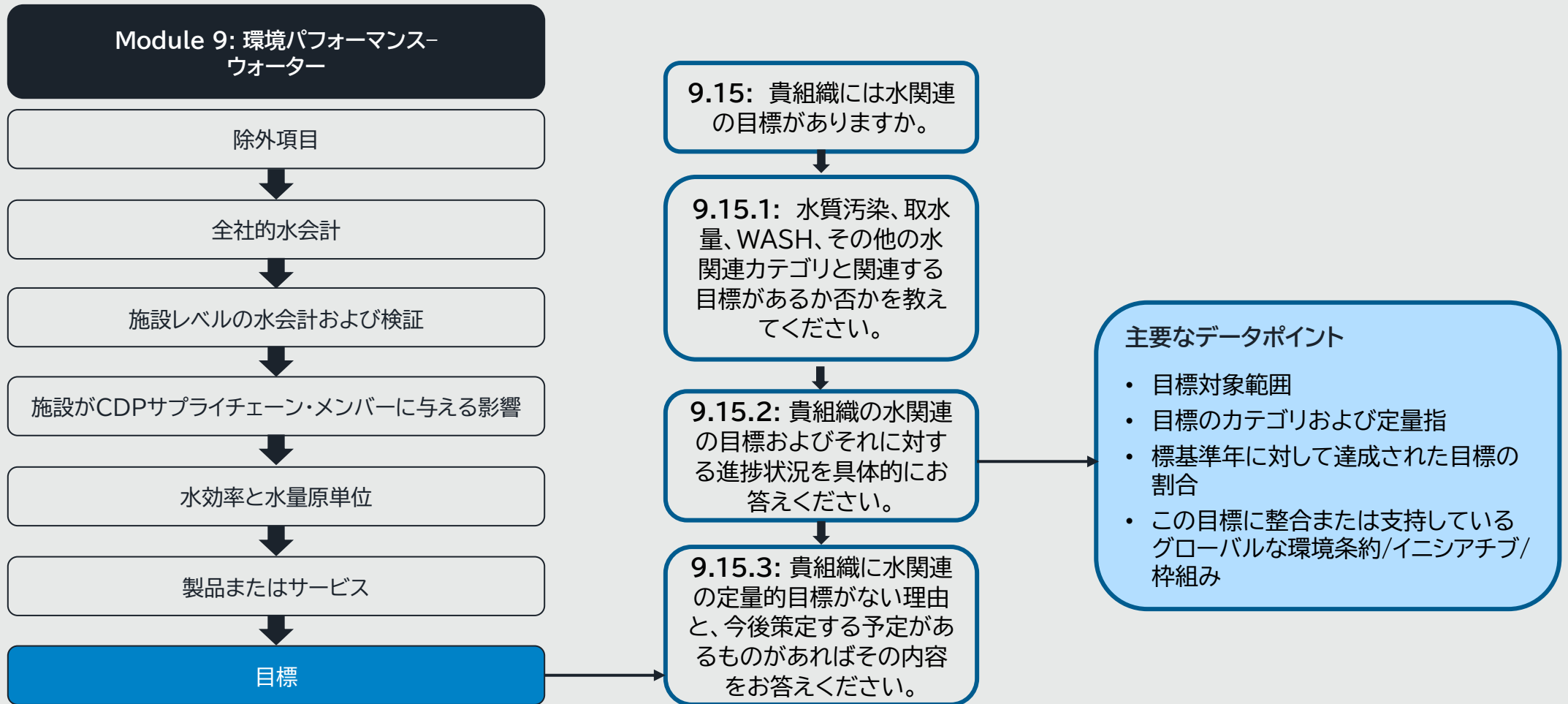
9.14: 貴組織が現在製造や提供をしている製品やサービスの中で、水に対するインパクトを少なくしているものはありますか。

主要なデータポイント

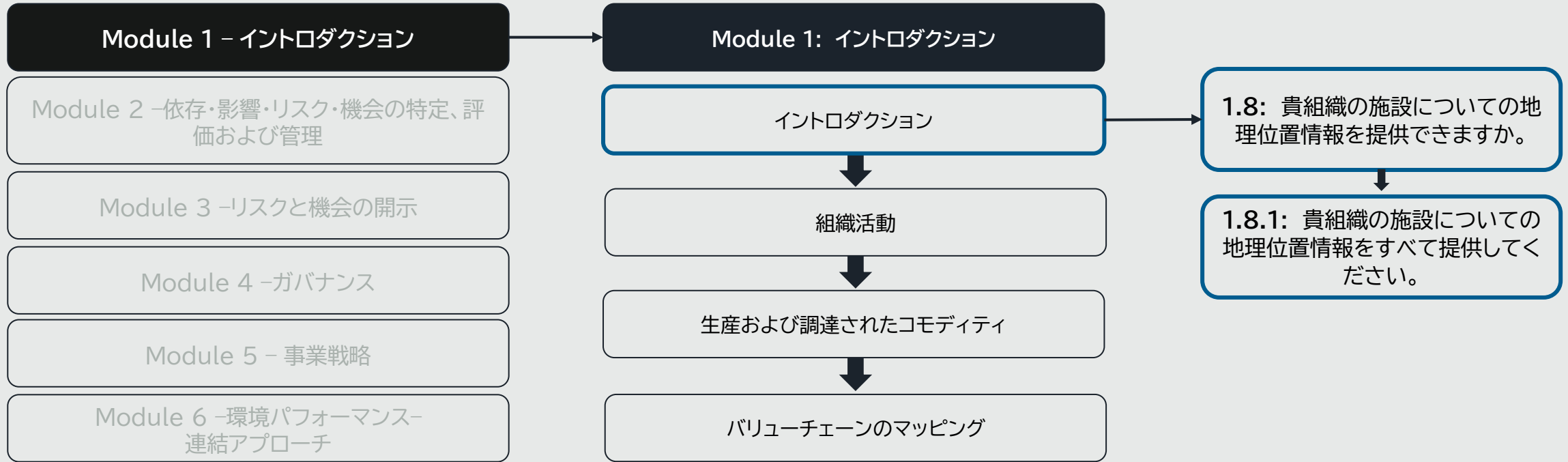
- 有害物質を含んだ製品
- 規制当局による有害物質分類
- 有害物質指定リストにある物質を含んだ製品が売上に占める割合



Module 9: 水関連の目標

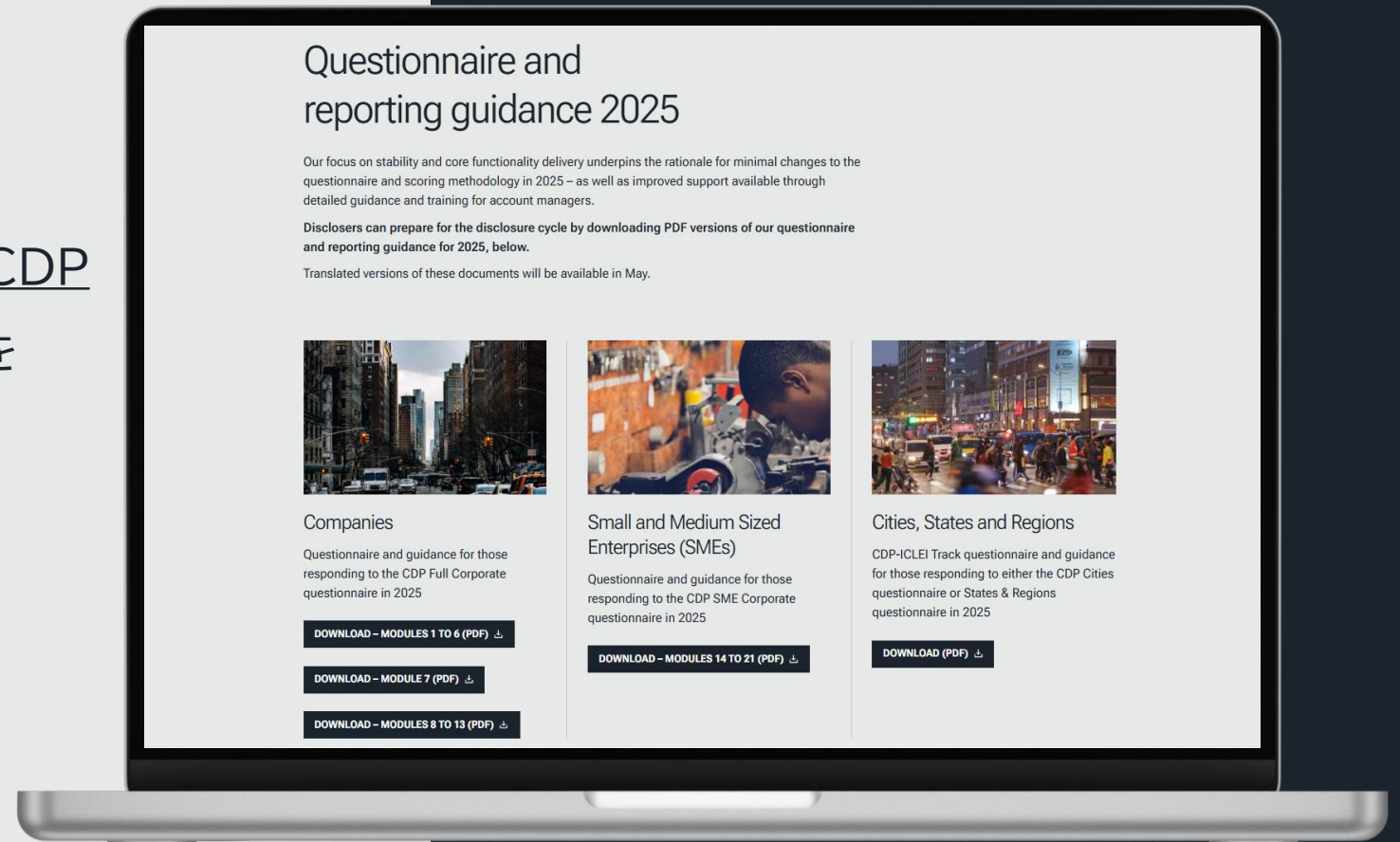


Module 1: ウォーターに関するサプライチェーン固有設問



ガイダンスとサポート

- オンライン開示ガイダンスページをご覧ください: [Our Question Bank - CDP](#)
- CDPすべての利用可能なガイダンス資料をまとめたHUBです。



リソース

2025年開示サイクルのリソース

- [Questionnaire and reporting guidance 2025](#)
- [Corporate Disclosure Key Changes for 2025](#)
- [CDP Guidance and scoring methodology for companies](#)
- [CDP Help Center: Knowledge Base and Support Tickets](#)
- [FAQs: General disclosure information](#)

ウォーター関連のリソース

- [CDP Water Watch – CDP](#)
- [CDP Technical Note on Water Accounting](#)
- [Water Disclosure in EU Regulation](#)
- [Corporate water stewardship and science-based targets for freshwater – CDP](#)
- [CDP Global Water Report 2023: Stewardship at the Source](#)



スコアリング対象となる

回答提出期限

2025年9月17日



A photograph of three people in an office environment. On the left, a person with dark hair is seen in profile, looking towards the center. In the middle, a young man with curly blonde hair is looking down at a desk. On the right, a woman with dark hair is also looking down, writing in a notebook. The background shows office equipment like a computer monitor and a desk lamp. A large, dark blue semi-circular graphic is overlaid on the bottom half of the image, containing the text and logo.

Any Questions?





Thank you!

ご不明な点がございましたら、
CDP公式サイト(cdp.net)を
ご覧ください。

